

## 東北復興 PSW にゆうす

前回の創刊号発行後、茨城の構成員より「東北 3 県以外にも目を向けてください」との声をいただきました。茨城県も海沿いは津波が押し寄せ、県南は液状化で水道が繋がらない状況が続きました。また農作物や漁業の風評被害なども続いています。生活訓練施設(移行前)が被災し、ほぼ全壊状態となったとの情報もあります。茨城県以外にも避難者の受け入れや実質的な被害の状況があり、復興支援の対象は全国に及ぶと言っても過言ではありません。私たちはこのような声の一つ一つを大切にしながら被災地と其処で歩む皆様に関心を持ち続け、できることを探し続けます。

そして、全国の仲間のみなさまにおきましては、この「にゆうす」が各地との想いをつなげる一助となることを願っております。

### 第2回は、岩手の「今」をお伝えします

#### ☆岩手沿岸北部(久慈市)リハビリタウン クニ 泉 伸

野田村では震災後心の健康相談センターを設立し、専門職と共にボランティアや地域住民が一体となり、週1回活動しています。1年経ってから相談にくる方もおり、地域の関連機関やボランティア等との連携がスムーズです。長期の支援が必要で、目に見える支援だけでなく見守るといった目に見えない支えも必要と感じています。

#### ☆岩手内陸北部(一戸町) 岩手県立一戸病院 加藤 暁子

内陸北部という事で、直接的な被害の少なかった地域ですが、元々自殺者が多く、地域のネットワーク会議や自殺未遂者支援パスによる地域ケアの導入など試みしています。また、県立病院が 20 ヶ所ありますので、被災地域に勤務する PSW・MSW 仲間の支援も課題として取り組んでいます。

#### ☆岩手沿岸中央(釜石市)

地域活動支援センター釜石 伊藤 慶展  
復興公営住宅の構想がスタートしている中、今仮設にいる障がい者がいつになったら入れるか?と不安でいます。仮設を訪問している中で聞かれる言葉です。釜石圏域の相談事業所と連携しながら支援をしたいと思っています。



#### ☆岩手内陸南部(奥州市)

##### 江刺地域包括支援センター 朝倉 千聡

沿岸地域から転居してきた被災者の方が、慣れない地域で交流なく支援行事に参加しても期待はずれで孤立感が募ったとのこと。奥州市では支援活動への助成など始まっていますが、まだまだ個別のニーズに対応し気持ちに寄り添う継続的な支援が求められています。

#### ☆岩手沿岸南部(陸前高田市)

##### 希望ヶ丘病院 新沼 勝利

被災した街にそれ程大きな変化はありません。瓦礫の山はまだ残り、荒涼とした風景が広がっています。陸前高田市は、保健所等と協働で健康調査を進めています。こころのケアチームは、大船渡市と陸前高田市で週1回の心の健康相談を実施しています。保健所は毎月、精神保健福祉担当者連絡協議会を開催し、各機関の連携を図っています。また、月1回、陸前高田市で『こころサロンたかた』を開き、被災し近親者を失った方や自死遺族の支援を実施しており、私も微力ながら参加しています。

復興のスピードの遅れが、被災者の心を疲弊させます。地域経済や生活の復興の進捗が、被災者のみならず地域の人々の心の健康に大きく影響します。復興の格差が広がっている中、メンタルケアのみならず、日常生活全般を見据えた総合的な支援体制が必要です。

#### ☆岩手内陸中部(花巻市)

##### 国立病院機構花巻病院 土田 滋(事務局)

月2回程沿岸釜石市への支援を当院で継続しています。この1年半、支援の形を状況に合わせて変えながら継続しています。当会としては岩手県内の福祉関連職能団体(社会福祉士会、介護福祉士会、医療ソーシャルワーカー協会、介護支援専門員協会など、計10団体前後)と協働し県の担当課も交え、岩手県版の福祉支援チームの組織化に向けた準備を進めています。発災直後からでも、福祉の支援チームが現地に入り生活困難者への援助がスムーズに運べるシステム作りを国にも要望しています。また、断続的ですが同職能団体で陸前高田市、大槌町の仮設住宅の生活支援員への研修支援を継続中です。多くの生活支援員の方は資格もない現地の被災者も多く、その過重なストレスを少しでも軽減できる支援者支援を続けていきたいと考えています。

**青森県** 青森県は、八戸市・三沢市を中心に被災し防波堤など海岸部分の修復がなかなか進まない状況ですが、陸上部分は建物の建てられない地域を除いて 70～80%の復旧が終わったところ。三沢市では、在日米軍の航空ショーなどの、イベントが開催され県内外から見物人が訪れ賑わっています。観光客も少しずつですが増えてきています。とても震災前と同じと言う訳にはいきませんが着実に元に戻ろうと言う力が働いていることを実感します。

また、祭りが復興の核になることも多いようで「ねぶた祭り」も関東・関西・東北各地に、出陣を繰り返しました。かなり不思議な気もしますが、「公務員の方も混ざっているよ」と言われると「なるほど！」ですね。

今、お金などの直接支援から、人々の生活の張りとか有りかたなどへの支援へと変化しながら、これから何十年も続く復興へと一歩を踏み出したばかりです。[いつまでも自分は覚えているぞ]とひとりひとりが思い続けることが必要です。 支部長 石田 康正



**山形県** 山形では、今年度の4月より通常総会及び春期研修会をはじめ各種イベントの際に、復興支援情報の共有や復興支援募金の呼びかけ、募金箱の設置をするなど、まずは、出来ることからをモットーに、細々と活動を展開しております。加えて、今回の東日本大震災の教訓を受け、災害対策委員会を立ち上げ、日本協会のガイドラインに沿った、山形県災害支援体制計画(山形版)を策定し、平常時から有事に備えた活動の内容を検討し始めております。さらに、継続して復興支援を意識しながら、関心を持ち続けていきたいと思っております。

支部長 河合 宏之



**秋田県** 秋田県内では、災害廃棄物の受け入れや避難者1,327人(537世帯)の受入等が実施されています。(H24.10.1)(秋田県公式 web サイト)一方、秋田県支部では、今、秋田県協会との連携の基、「できることは何か?」「思いを伝える方法は何か?」を模索しながら活動中。県支部構成員、県協会会員一人一人からのつながる思いとして全員募金を目標に直接声かけ、趣旨説明を重ねています。少しずつではありますが募金も集まり始めています。まだまだ実をつけるには時間がかかりそうですが、「伝える、つながる復興へ」引き続き活動を継続しています。

事務局長 佐藤 篤



**支援活動に参加されている構成員からのレポート**

現地に行くと直接お話を聞かせていただくことはもちろんですが、その土地の空気や匂い等を五感で感じられます。五感で感じ、それを記憶に刻んでいくこと。そこからできる次のことを考えていくことが必要な気がします。関東でも被災されている地域があります。東北だけでなく、必要とされているところへ必要な支援をどうやって結び付けていくのか。思いはあっても現地に行けない方も多くいらっしゃると思います。一人一人が自分ができる何らかの行動を起こすことが必要なのかもしれない。困っていらっしゃる方たちに寄り添える支援者であり続けたいと願っています。(神奈川県 Iさん)

**☆皆さんからのメッセージを募集します☆**

本誌では被災した各地の仲間へのメッセージ及び被災地からの情報発信など、相互交流ができる紙面づくりを目指しております。全国どなたからのメッセージでも構いません。それぞれのお立場からの声をお聞かせください。本誌へのご意見・ご感想も大歓迎です。本紙面にてご紹介させていただきます(個人情報掲載いたしません)。お届け先は下記復興支援本部へのFAXもしくはE-mailにてお願いいたします。E-mail: office@japsw.or.jp

\* 題名に「PSW にゆうすについて」とご記入をお願いします。

**復興支援本部「ほっと phone」のご案内**

直接つながる専用 PHS があります。被災地にあつて暮らし、日々の実践に励まれる皆さんの声をお寄せ下さい。全国各地から被災地にお届けする声も期待しています。電話代ご負担の無いように着信履歴を残していただければこちらから掛け直します。小関本部長代行(山形・木の実町診療所)がお応えします。[TEL070-6450-2615]お寄せいただいた声は、復興支援に生かしてまいります。

♡～復興支援活動募金報告～♡

1,667,970円 (H24.4月～10月26日現在)  
皆様からお預かりした真心のこもった募金は、復興支援に携わる仲間への支援に役立ててまいります。使途は随時本誌にて報告いたします。引き続きご協力のほど、よろしくお願いたします。

第2号 2012年11月15日発行  
発行:(社)日本精神保健福祉士協会  
東日本大震災復興支援本部  
〒160-0015 東京都新宿区大京町23-3  
四谷オーキッドビル7F  
TEL.03-5366-3152 FAX.03-5366-2993  
復興支援本部 URL:  
<http://www.japsw.or.jp/f-honbu/>